

せんせいのおにぎり

みどりの小学校 いあたこうすけ

ぼくのようちえんのときのはなしです。

ぼくのがよっていたようちえんでは、もくようひが

「おにぎりのひ」

というのがありました。そのときのことをかきます。

ぼくには、だいすきなせんせいがあります。

せんせいはい、ようちえんのなかで、いちばん

せがたかく、だれよりもこえがおおきいです。

そして、いつもげんきで、ちかちかもちのパワフルなせんせいなのです。そのせんせいがた

てるおにぎりに、げんきなポイントがあると

ぼくはきがりました。

ぼくは、いつもせんせいのことをみて、けんきうをしました。そして、おべんとう

のふくろから、おおきなおいぎりをひとつとりだしてきました。なにかいたとえるなら、

おおきなメロンパンか、マドモよしのグロー

ブザルいのおおきなおにぎりだ。たのです。
しかもせんせいはいそれよりもはやく、ぺろ
つと、たでてしまったのです。ぼくは、びっ
くりしてせんせいから、めがはなせなくなり
ました。

そして、せんせいにはなすと、
「ようちえんでも、たいせつにおこめをそだ
てているでしょ。のうかのひとがたいせつに
そだてたおこめをむだにしたらダメなの。」

「ほんのすこしでも、のこすならおにぎりを
すこしおおきくしてしまえば、のこさずたべ
れるでしょ。」

と、いつていました。

せんせいは、よくたべるだけではなく、た
べものをだいいじにしているから、おおきくて、
リッパで、パワフルなだとおもいました。
ぼくも、せんせいのようにおおきくて、パワ
フルになりたいので、こめつぶひとつ、のこ
さないように、おこめをたでようとちかいま
す。